

第 1 回 福崎町地域公共交通事業者部会 議事要旨

1. 日 時 平成 23 年 9 月 16 日 (金) 10:00~12:00

2. 場 所 福崎町役場 2 階 会議室

3. 出席者

月野木委員 (神姫バス株式会社姫路営業所)、中澤委員 (社団法人兵庫県バス協会)、依藤委員 (社団法人兵庫県タクシー協会西播地区 (神崎交通有限会社))、中川委員 (神姫バス労働組合)

4. 配布資料

- 次第
- 資料 1 今後の検討の全体構成
- 資料 2 サルビア号再編案比較
- 資料 3 案 1: 全域予約型の具体例
- 資料 4 案 2: 市街地部定時定路線型+郊外部予約型 (乗換えなし) の具体例
- 資料 5 路線バスの再編案

5. 協議事項

委員○ 事務局●

(1) サルビア号再編案比較について

- 全域予約型の運行に再編してしまわず、まず市街地部定時定路線型+郊外部予約型の運行を行い、試行錯誤をしても成功しない場合、次の方法を考えるべきであると思う。
- サルビア号をどの案に再編したとしてもタクシー事業と競合することになる。利用者の事を考えると利便性を上げ、多くの人に利用されやすいサルビア号に再編するべきだと思う。
- 今まで、地元のバス・タクシー事業者が地域住民の足を守ってきた経緯があるので、バス・タクシー事業者の意見を踏まえて案を決定して欲しい。
- 福崎町としては、再編するサルビア号を公共交通として位置付けしているのか、または、福祉的な交通として位置付けしているのか。
- 再編するサルビア号は基本的に公共交通として位置付けて検討している。
- 国土交通省のコミュニティバス導入のガイドラインに記載されている、コミュニティバスに対しての考え方に則って路線バスとコミュニティバスの棲み分けを行い、運行方法を選んで欲しい。
- 案 2、案 3 は市街地部を定時定路線型で運行することにより、目的地によっては大きく迂回が発生し、利用者にとっては利用しづらいと思う。
- 回る方向を便によって変える運行方法かまたは、市街地部も予約型にすれば問題を解消できると思う。
- 宍粟市では、利用者のほとんどが高齢者であることから、電話予約をしても忘れてバス停に来ないという問題が発生している。宍粟市では予約型から定時定路線型に戻したいという意見も出ている。
- 全域定時定路線型の運行方法は、各自自治体のコミュニティバスの導入で失敗している運行方法である。
- 案 2 で運行車両を 1 台ずつ別の事業者で分けることは可能であるか。
- 分けることは可能であるが、管理等の問題が難しいと思う。
- 本日の事業者部会では以下に示すような意見であったが、今後、住民などの意見も踏まえ、再編方針を決定したい。
 - ・全域定時定路線型は再編案としては考えない方が良い。

- ・住民にとっては、案1～案3の順に利用しやすいと考えられるが、案1は既存事業者への影響が最も大きく、案2・案3の順で影響が小さくなる。
- ・案1は、案2・案3で試行錯誤した後の次の段階として検討すべき案であり、現時点では時期尚早であるため、今回の再編では見送ってほしい。

○川西地区は交通空白地であると考えられるが、他の地域は路線バスが走っているので交通空白地ではないことを理解してほしい。

- その様な理解はしている。交通空白地ではない地域については、今後事業者と検討していきたいと考えている。

(2) 運行車両について

○ワゴン車で市街地内を定時定路線で回ることにより定員オーバーする可能性がある。利用者が利用できない場合があると苦情が多く出ると思う。

- 現行のサルビア号の利用者数は1便あたり2～3人であり、その様な事態が起こらないと考えられる。バス車両については、再編後、利用者数が増加すれば検討していきたい。

○案3は運行ルートによっては、現行のサルビア号車両の大きさでも運行できると思う。かつ、現在使用している車両を使うことにより、コストも下げることができる。

- 案3は郊外部と市街地部でバス車両を分けるため、市街地部の定時定路線型の運行方法を検討しやすくなる。

(3) 路線バスルートの再編について

○現時点で再編時期を示すことはできないが、この再編案を事務局からの提案として受けて、検討していきたいと思う。

第1回 福崎町地域公共交通住民代表部会 議事要旨

1. 日時 平成23年9月20日(火) 10:00~11:30

2. 場所 福崎町役場 2階 会議室

3. 出席者

中田委員(福崎町区長会)、庄委員(福崎町老人クラブ連合会)、後藤委員(福崎町商工会)、高井委員(福崎町議会(民生常任委員会))、吉識委員(福崎町議会(産業建設常任委員会))

4. 配布資料

- 次第
- 資料1 今後の検討の全体構成
- 資料2 サルビア号再編案比較
- 資料3 案1:全域予約型の具体例
- 資料4 案2:市街地部定時定路線型+郊外部予約型(乗換えなし)の具体例
- 資料5 路線バスの再編案

5. 協議事項

委員○ 事務局●

(1) 運行経費について

○案によって費用面で違いはあるのか。

- 費用面では、全域定時定路線型が一番安い。案1~3については、予約型の運行であるためオペレーターの人件費や予約システム導入費がかかるので、全域定時定路線型より案1~3の方が高くなる。現行のサルビア号では年間約1,100万円であるが、再編案の経費は年間1,300万円~1,500万円になり、年間約200~400万円増となる。

(2) サルビア号再編案比較について

○案2や案3では、市街地部の定時定路線型が左回りのみになっているが、右回りも考えられないのか。

- 市街地部の定時定路線型の運行方法については、今後検討する予定である。

○9月16日(金)に開催した事業者部会では、どのような結論になったのか。

- 事業者部会では案1の全域予約型に対して既存の地域公共交通と競合すると考え、現段階では了承できないとなった。案2、3の市街地部定時定路線型+郊外部予約型の運行方法については、了承している。全域定時定路線型は、今までの失敗例の延長であるため、再編検討するべきではないとなった。タクシー事業者は、全ての案(特に案1)がタクシー事業に影響を及ぼすことから、再編後の運行事業に参画したい意向を示している。

○福崎町がワゴン車を購入して、運転手をシルバー人材センターから雇用してサルビア号を運行する方法も考えられないのか。福崎町のスクールバスなどの運行は、どのような方法で行っているのか。

- 福崎町のスクールバス等の運行は、福崎町で車両を購入し、運転手はアルバイトを雇用しているが、白ナンバーの車両による無償運行となっている。しかし、福崎町としてはサルビア号の有料化を考えている。有料のバスを運行するためには、道路運送法に従う必要があり、申請等のハードルが高いことから事業者には運行を委託することを考えている。

○再編後の運行車両にも添乗員を乗車させるのか。

- 10人~13人乗りのトヨタのハイエースで運行することを予定しており、利用者が乗車しやすいように改造することから、添乗員は乗車させない予定である。必要に応じて運転手が乗車の補助を行う

ことも検討できると考えている。

- 住民の意見の大半が案1：全域予約型であったら、案1：全域予約型に再編するべきであると思う。
- サルビア号再編方針案に対する住民代表部会の意見としては、利用者が一番利用しやすいと思われる案1が最も良いということを意見として受けた。今後は、運行経費が現行より増えても、利用者をそれ以上増やす考えで利用者の利便性も考慮してサルビア号の再編を検討していきたいと思う。